

泉の森の動植物調査について ; 趣旨説明

早川 直美

(トトロのふるさと基金 調査部会)

要旨

トラストで取得したトトロの森が 4 カ所隣接している「泉の森」で、動植物の調査をした。未確定の種を含めて、樹木では、森によって 12 種から 24 種、林床植物は 17 種から 92 種を、哺乳類では 5 種、鳥類では 25 種を確認した。本調査で、他のトトロの森では確認していない動植物が確認できたことは、泉の森の特性を表している。放置され 30 年以上たつ荒れた雑木林だが、このような場所を好む生き物、このような場所だからこそ暮らせる生き物がいることを理解したい。

キーワード: 雑木林 ; 茂み ; 川 ; 管理作業

はじめに

2017 年にトトロの森 44 号地を取得してから 2022 年にかけて、隣り合う 4 カ所の森を取得することができた (図 1)。「泉の森」と名付けられた雑木林は、狭山丘陵を北へ下り、小手指古戦場跡へ続く農地に使われた平地林である。1980 年代には農用林としての役割を終え、樹木は高木となり、モウソウチクが入り込み、アズマネザサや倒木で見通しがきかない茂みとなっている。しかしながら、すぐ近くに東川の支流である大川があり、チダケサシやヤマボウシなど丘陵ではあまり見られない植物もあった。向かいの北野総合運動場は、以前は水田であったため、林内は湿気があり、落ち葉が厚く堆積した林床には動物の気配が多く見付き、他のトトロの森とは違う環境であることを、調査部員全員が感じていた。

そこで、調査部会では、多角的な視点から管理方針を検討したいと考え、植生調査 (川越・横山 2018) (川越・児嶋 2023) のほかに赤外線センサーカメラ、シャーマントラップによる動物調査と林床出現植物の季節変化を記録した。

調査は、植物については泉の森全体を対象とした。赤外線センサーカメラとシャーマントラップについては、一番面積の広い 54 号地を対象とした。

調査に当たっては、多くの方々に協力していただいた。ここに御礼申し上げる。

調査協力者 (敬称略 五十音順)

青野泰子、岩瀬英明、大塚隆廣、川越みなみ、児嶋翼、佐藤善治、佐藤ひな子、鈴木仁、対馬良一、堤加陽子、永橋悦子、早川直美、前田修、渡辺修

調査地概要

調査地は、トトロの森 44 号地、54 号地、55 号地、59 号地である。北野総合運動場と大川を挟んだ南側にある平地林の一部で、東西に続いている。

トトロの森 44 号地は、2017 年に取得、面積 386m²である。取得直後の植生調査では、ムクノキとウワミズザクラの下をシラカシとヒサカキの常緑樹が優占する林であった(川越・横山 2018)が、東側と北側において住宅地と隣り合う部分を 2018 年から 2019 年にかけて皆伐している。

トトロの森 54 号地は、2020 年に取得、面積 3674 m²である。44 号地に赤道をへて隣接し、住宅地に隣接こそしてはいないが近距離にある。モウソウチクが深く入り込み、林床はジャノヒゲとアズマネザサが優占している(川越・児嶋 2023)。

トトロの森 55 号地は、2020 年に取得、面積 191 m²である。大川に一部が面している。樹木はコナラが優占し、林床はジャノヒゲが優占している(川越・児嶋 2023)。

トトロの森 59 号地は、2022 年に取得、面積は 284 m²である。54 号地に隣接している。樹木はコナラが優占し、林床はジャノヒゲが優占している(川越・児嶋 2023)。

54 号地と大川との間は管理作業により草地が維持され、59 号地の西側は、雑木林が続いている。

地元の方のお話では、1970 年代までこの森は『どうしんやま』と呼ばれ、農用林であるとともに、子どもたちの遊び場であった。川は、付近の湧水が集まったもので、水が枯れることはなかったそうである。『どうしんやま』の中にも湧水があり、子どもたちは『ふるいど』と呼んで、その水たまりに集まっていた。1980 年代に田んぼが埋め立てられ、生活様式が変化する中で雑木林は使われなくなり人も入らなくなっていったそうである。昔はタヌキやキツネを見たり、キジやフクロウの鳴き声を聞いたりした。今は、タヌキとハクビシンとコジュケイをよくみかけるそうである。

引用文献

川越みなみ・横山伸夫 (2018) トトロの森 34 号地～36 号地、38 号地～40 号地、42 号地～44 号地、46 号地の植生と管理方針. トトロのふるさと基金自然環境調査報告書 14 : 1-8.

川越みなみ・児嶋翼 (2023) トトロの森 53 号地～56 号地、59 号地の植生. トトロのふるさと基金自然環境調査報告書 17 : 3-21.



図 1 泉の森の位置